

# 「ハイムとアトムとミッキーマウス」

ハイム M1、鉄腕アトム、ウォルト・ディズニー、この三つが関係あるとしたら、皆さんは信じてくれますか。実はこの三つは私の体の中でつながっているのです。

私が子どもの 1950 年頃、私の実家は町の小さな書店を営んでいた。中学～高校にかけて、私も時々店番をやらされていたが、その時は当時はやっていた漫画本を夢中で読み漁っていた。

その中で愛読し、特に気に入っていた漫画が手塚治虫の「鉄腕アトム」であった。その頃連載されていた雑誌「少年」のアトム連載漫画の一部は今でも手元に残っている。

アトムが誕生する 21 世紀（2003.4.7）には、手塚治虫の描く、高層ビルが立ち並び、高速道路が行き交い、ロケットが飛ぶ「華やかな近代都市」になっていて、いつか私もこのような都市やまちづくりにかかわりたいことを夢見ながら、多感な青春時代を送っていた。

やがて時が移り 1961 年、私は当時プラスチック新素材で新しい製品にチャレンジしていた積水化学工業に、自分の夢を実現できる可能性のある会社として入社した。そして「本社開発部」に配属になり、セキスイの明日の製品をさがす会社生活を送っていた。

そんなある日、アメリカの Modern Plastics という雑誌 1957 年 6～7 月号にウォルト・ディズニー描く未来の都市に、FRP ユニットで成型した住宅、「House of Future」が試作されている記事を発見した。手塚治虫の描く未来都市にあこがれていた私にとって、ディズニーの描くフロリダの House of Future は、私の夢が一步現実のものとして近づいて来た感じであった。そして相変わらず、未来の都市や住環境系の雑誌、文献などに目を通していたところ、ある日デザイン雑誌「造」1967 年 5 月号に、当時東大大学院 1 年の大野勝彦氏の記事「住宅をユニット化して工場生産する」記事に遭遇することが出来た。さっそく彼を研究所にお呼びして、多少の紆余曲折はあったが、彼の提案を試作したのがハイム M-1 であった。

M-1 の形はまさに、手塚治虫やウォルト・ディズニーが描く、未来住宅の概念そのものの形状を示していた。

手塚治虫が描き、ウォルト・ディズニーが試作した『住宅を箱状にして工場で大量生産し、それで未来都市や街を作る』発想は、SF や漫画の世界では、古くからある割合ポピュラーな発想である。それゆえ有名な建築家達も多くこのテーマに取り組み、今までにベーミス、グロピウス、黒川紀章、モントリオール博ハビタ 67 の設計者サフディなどが挑戦してきている。さらに多くの企業も GE、National Homes、新日鐵など世界的な大企業がもこの「夢」に挑戦しているが、試作品としてはいくつかの例をみることができるが、これを事業化したところは皆無である。

この昔からの人類の夢であった「住宅を工場でつくり、それにより都市や街をつくる」事業に成功した企業は、世界にただ一つまさに積水化学工業だけである。セキスイハイムは本当に夢のあるすばらしい事業だと確信しています。

今後のますますのご発展を心よりお祈りし、またさらなる革新に期待しています。

M&I 研究所 松村正道  
(積水化学工業住宅カンパニー0B)